

# 府県向き牧草・飼料作物新品種のご紹介

## はじめに

購入飼料価格の上昇が畜産農家の経営を大きく圧迫する状況が続いています。これに対して自給飼料の増産によりコストを抑え積極的に収益を改善しようという動きが強まり、優良品種の利用や自給飼料増産に対する国の対策事業も組まれています。

弊社では、これまでに日本の気候・風土に適応し、様々な病害に強く、耐倒伏性や収量性などに優れる多くの牧草や飼料作物の品種を開発してきました。今後もさらに、嗜好性や消化性、栄養価が高いなど飼料としての中身の改良も加え、畜産農家の皆様がより使いやすく、乳肉の低コスト生産に役立つ新品種を開発することで、自給飼料増産をご支援したいと願っています。

ここでは、このような観点で開発され都府県向けに販売を開始した品種と、本年から販売を開始する予定の新品種についてご紹介しますので、皆様の作付計画への組み込みをご検討いただければ幸いです。

## 1. ソルガム類

### 1) スーダングラス「リッチスーダン」



スーダングラスは夏期のロールバール利用向きの飼料作物として欠かせないものですが、収穫が遅れると葉病害にかかりやすく、また茎が硬くなり嗜好性や消化性が低下するなどの欠点があります。

「リッチスーダン」はこの点を改良した新品種で、他の品種に比べて消化が悪い繊維であるADFの含量が少ないため、消化性に優れ嗜好性も良好で牛の食い込みが良いことが評価され利用が年々増えています。また西南暖地で多発する紫斑点病や条斑細菌病にも強い抵抗性を持っています。

「リッチスーダン」の詳しい特性については、本誌第59巻第1号(2011年)、第60巻第2号(2012年)をご参照下さい。

### 2) スーダン型ソルガム「BMR<sup>®</sup>スイート」



スーダン型ソルガムは生育が早く再生力にも優れているため、青刈りやサイレージ利用はもちろん、ロールバール利用にも使われています。

「BMRスイート」はリグニン含量が低く、消化性に優れるbmr遺伝子を持つ新しいタイプのソルガムとして好評いただいていたが、より消化率が高く、紫斑点病抵抗性に極めて強い抵抗性を示す系統にパワーアップして販売を開始しました。

新「BMRスイート」の詳しい特性については本誌第62巻第2号(2014年)を参照下さい。

## 2. イタリアンライグラス

### 「優春」と「SI-14」新品種

「優春」については、本誌では何度か紹介していますが、他の品種に比べて牛に有害な硝酸態窒素を蓄積しにくいこと、加えて低カルシウム血症等の原

因にもなるカリウムを蓄積しにくいという特性を持つ「牛に優しい」新しいタイプの品種です。糞尿を過剰投入気味で牛の健康が心配な方に特にお勧めしたい品種ですが、基本的な特性は、タチワセ、タチマサリなど他の早生品種と同等で、耐倒伏性や冠さび病などの葉病害にも強く、収量性も同等ですので、窒素過剰が心配の無い方にもお勧めしたい品種です。

「優春」の詳しい特性や試験成績等については、本誌第57巻第4号（2009年）を参照下さい。



「SI-14」は、平成27年より販売開始する予定の新品種です。優春と同じく農研機構畜産草地研究所と共同開発した早生品種で、優春の優れた形質は維持したまま、さらに2割以上硝酸態窒素の蓄積を減らし、カリ含量も優春同様に含有量が低い品種です。

本系統は品種登録を申請中で、現在種子を増殖中です。販売名称もまだ決定していない出来たてホヤホヤの新品種ですが、順調に行けば本年秋より試作と一部販売を開始する予定です。なお、本品種の詳しい特性については本年7月発刊予定の本誌第4号でご紹介しますので詳しくはそちらをご覧ください。

### 3. 飼料用ムギ類

#### 1) エンバク ウルトラハヤテ「韋駄天」



「韋駄天」はロングセラーとなっているスーパーハヤテ「隼」と同様に特に晩夏播き年内利用に適する極早生品種です。隼よりも、やや草丈が短めですが、耐倒伏性に優れていることや、播種が遅れても年内出穂性が安定しており使いやすいこと、晩秋に激発することがある冠さびに強いことなどが評価されています。

ウルトラハヤテ「韋駄天」の詳しい特性や試験成績は、本誌第57巻第4号（2009年）および59巻第4号（2011年）を参照ください。

#### 2) オオムギ「ムサシボウ」新品種



一部の地域で先行販売していましたが、本年より販売地域を府県全域に拡大する飼料用オオムギの中生の多収品種です。飼料用オオムギはこれまで極早生の「ワセドリ2条」だけでしたが、「ムサシボウ」はこれよりも出穂が2週間ほど遅い秋播き→春収穫専用の中生品種です。

耐倒伏性に優れる他、収量性も良好ですが、この品種の大きな特徴は穂に野毛が無いことです。オオムギはもともと嗜好性やサイレージ適性の高い作物とされていましたが、穂に硬い野毛があるため、これにより牛が咳き込んだり、嗜好性が低下したりする他、人に付着するとチクチクして嫌われることがありました。「ムサシボウ」はこの野毛が無いため収穫が遅れても野毛による嗜好性の低下が無いほか、イタリアンとの混播で増収効果もあり、今後いろいろな使い方が広がると期待されます。

「ムサシボウ」の詳しい特性や使い方については、弊社都府県版カタログ（平成27年／品種開発と栽培の手引き）をご覧ください。本年9月発刊予定の本誌第5号でご紹介する予定ですので参考にしてください。